

同形二字漢字語の品詞性に関する日韓中データベースの概要¹

朴 善嫻²

熊 可欣³

玉岡 賀津雄⁴

要約: 日本語, 韓国語および中国語の同形語の2字漢字語の2,060語について, 使用頻度などの基本情報と品詞について掲載したデータベースを作成した。本データベースでは, 2,060語に対し, 日本語・韓国語・中国語について, 3言語の品詞, 日本語での使用頻度など多様な情報を掲載した。本論文は, 日韓間, また日中間の漢字語の背景に基づき, 本データベースの構築や22のセルの内容を説明した概要である。

キーワード: 日・韓・中の2字漢字語 品詞性 データ構築 辞書情報 日本語教育

1. はじめに

日本語では, 漢字で表記する語が多く存在している。日本語の国語辞典に記載された見出し語の内, 約70%が漢字2字で構成されている(Yokosawa & Umeda, 1988)。そのため日本語教育の一環として, 漢字語教育が重要な位置を占めている。このような日本語を学習する際, 漢字を母語としている中国人日本語学習者と, 現代は漢字表記ではないが漢字語が多く存在している韓国語を母語とする韓国人日本語学習者の日本語の漢字語習得に

¹ English title: A description of the database of grammatical categories for orthographically-similar two-kanji compound words among the Japanese, Korean and Chinese languages

² PARK, Sunju; E-mail: tenchyoy76@yahoo.co.jp

³ XIONG, Kexin; E-mail: xiongekexindawai@yahoo.co.jp

⁴ TAMAOKA, Katsuo; E-mail: ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp

においては有利であるといわれている。

日本語と中国語との漢字語については、多くの対照研究が行われてきた(石・王, 1983; 三浦, 1984; 荒川, 1988 等)。さらに、文化庁(1978)は日本語教科書から2千語を取り出し、それらの語の表記と対応する中国語を、意味の対応関係に基づいて分類した。しかし、中両言語での漢字語は、書字あるいは意味が類似していても、文法的な用法にズレがある場合もある。学習者が作文を書いたり、スピーチしたりする場合、語彙の使用は文レベルであるため、品詞の違いも無視できない(陳, 2003)。品詞のズレに関する研究には、石・王(1983)がある。なお、石・王(1983)の分析項目とした全107語を見ると、「憔悴」「老成」などは日本語能力試験出題基準に入っていない。分析項目をさらに増やし、そして教育現場で目標とする日本語能力試験の出題基準に従った語を抽出する必要があると考えられる。

一方、韓国語の語彙のうち、一文字でも漢字が含まれている語の割合は、69%にのぼる(Lee, 2002)。このように漢字語の占める割合が高い漢字表記の語彙の中でも、特に「運動」や「無理」など2字で構成される漢字語は日本語との音韻的・統語的な類似性が高いため、両言語学習者にとっては有利な点でもある。また、これらの漢字語には、固有語との結合により、述語的な機能を果たす構造を持っているなど非常に類似している。例えば、「運動」という名詞に動詞化する語尾、つまり日本語では*-suru* が、韓国語では*-hada* が付加することで動詞性を表し、「運動 *suru*」や「運動 *hada*」は動詞として使われる。また、「無理」という名詞に日本語の*-da* を付加すると形容動詞になり、韓国語では*-hada* を付加すると形容詞として使われる。つまり、動作性または状態性を持っている名詞の漢字語に述語の接尾(動作性は*-suru/-hada*, 状態性は*-da/-hada*)をつけることにより、品詞性を変えて使えることになる。このように日本語と韓国語においては漢字語の語彙的類似性だけではなく、文法的特性が類似している。

韓国語と日本語の漢字語には、基本は名詞であるが、動詞、形容詞、副詞になるものもあり(李, 2002)、さらに本データベースから分かるように、3つ以上の品詞性を持つものもある。そのため、指摘しているように、韓国語と日本語の漢字語が類似しているとしても、両言語で品詞において微妙な違いがあり、混同して使われる場合が少なくない。

そこで、日本語の漢字語の品詞性を確認した上で、これらの語に対応する中国語と韓国語の同形漢字語の特性を反映している情報をデータとしてまとめたデータベースを作成することにした。

2. 見出し語の漢字語

本データベースでは、『日本語能力試験出題基準』(2007, 改定版4刷)の〈文字・語彙〉を用いた(以下、『旧試験』)。本データベースでは、『旧試験』の語彙から2字からなる熟語(以下, 2字漢字語)を全て抽出したものを対象とした。これらの語を中心に、韓国語と中国語における漢字語の品詞情報を、各々国語の辞書を用い、調べたものを掲載している。本データベースの見出し語である2字漢字語は、日本語能力試験でも中級に相当する漢字語に焦点を合わせたため、1級の語彙を除いた。⁵ 本データベースで扱った見出し語は、日本語学習における中級レベルの 2,060 語の2字漢字語である。これらの日本語の見出し語に対応した韓国語と中国語の漢字語の品詞情報を記載した。

なお、『旧試験』では、通常はひらがなで表記される語についても、漢字を併記しているので、それらの語も含んでいる。たとえば、「あなたのせい(所為)」という場合に、「所為」という漢字表記を使うことはほとんどない。しかし、本データベースでは、漢字語表記語として 2,060 語に含んだ。同様に、「よそ(余所)の人」の「余所」、「やかん(薬缶)」、「そば(蕎麦)」、「かみくず(紙屑)」なども漢字表記として扱っている。

3. データの構築

本データベースの構成は、日本語における2字漢字語を見出し語とした。これらの見出し語に対し、韓国語および中国語の存在有無や各語の品詞情報および文法情報を掲載した。⁶ まず日本語の見出し語に対し、5種類の辞書を参照とし、各辞書における品詞の情報を調べた。これは辞書によって、掲載されている見出し語や各漢字語の品詞情報が異なったため、品詞の記述がある掲載されている5種類の辞書を用いた。この際、辞書によって品

⁵ 語彙の選定基準は、『日本語能力試験出題基準』(2007, 改定版4刷)の pp.53 を参照。

⁶ 各国の国語辞典に掲載有無で判断を行った。

詞の記述表記が異なったため、品詞情報が変わらない範囲で統一し、当該する品詞の項目をすべて表記した。ただし、各辞書の記述順はそのままにした。例えば、『岩波国語辞典』では、[ときどき【時々】]は「①副詞②名詞」で、[いったい【一体】]は「①名詞②副詞」の順に記述されていたため、それに従い記述した。

表1 データベースのセルに関する説明

セル	セルのタイトル	セルの情報に関する説明
1	No	見出し語の番号
2	表記	日本語の見出し語の漢字表記
3	読み	日本語の読み表記
4	新明解	新明解国語辞典(第7版)【机上版】
5	角川	角川新国語辞典(初版)
6	岩波	岩波国語辞典(第6版)
7	明鏡	明鏡国語辞典(第2版)
8	旺文社	旺文社詳解国語辞典(初版)
9	朝日新聞	1985-1998 年の朝日新聞の使用頻度, 天野・近藤 (2000)
10	毎日新聞	2000-2010 年の毎日新聞の使用頻度
11	級	『日本語能力試験出題基準』(2007, 改訂版第4刷)の配当級
12	韓・漢字表記	韓国語の漢字表記
13	ハングル	漢字のハングル表記
14	~hada(動)	動詞能動-hada
15	~doeda(動)	動詞受動-doeda
16	~hada(形)	形容詞-hada
17	~的	接尾辞「-的(-jeog)」
18	中国語表記	中国語の漢字表記(簡体字)
19	中国語読み	中国語の読み表記(ピンイン)
20	漢語辞典	現代漢語辞典(第5版)
21	規範辞典	現代漢語規範辞典(第1版)
22	一貫性	『漢語辞典』と『規範辞典』に掲載された品詞情報の一貫性

中国語の場合は、中国国語辞書のうち、最近出版されているもののうち品詞の情報が得られる2種類の辞書を用い、両辞書で品詞が一致すれば「○」を、不一致する場合は「×」で示した。日本語と同様に掲載されている語や品詞情報が辞書によって異なったため、2種類の辞書を調べ、その情報を載せた。

また、韓国語の場合は、品詞情報より名詞である2字漢字語が動詞化するおよび形容詞化する語尾の付加の可否について、可の場合は「1」、不可の場合は「0」を掲載した。これらの情報は、韓国語の標準規定を従って制作された『標準国語大辞典』を参照したものである。

4. セルの説明

本データベースでは、22 の項目を設け、日本語の2字漢字語の情報を始め、それに対応する韓国語と中国語の品詞の情報を載せた。22 項目は、Excel のセルを使用し、並列して掲載した。表1に、これら 22 のセルの情報の説明を明記した。辞書から取った品詞データについては、主に各辞書の凡例を参照とし、辞書の凡例を記述とおりに引用した部分が多い。

セル1 見出し語の番号

見出し語順は、基本的に五十音順に沿ったものである。ただし、調査対象の漢字語が日本語能力試験出題基準における語彙レベルの配当級を参考にした。記載した数値は、4級であれば「4」、3級であれば「3」、2級であれば「2」とした。1級の語彙は含んでいないので、「1」の記載はない。

セル2 日本語の見出し語および漢字表記

本データベースにおける見出し語は、『日本語能力試験出題基準』から2級、3級、4級に相当する語彙のうち、2字からなる熟語のみを抽出したものである。⁷ これらの2字熟語の漢字表記は、日本の文化庁が「公用文における漢字使用」を通して、日本の通用漢字表

⁷ 語彙の選定基準は、3・4級は pp.11 を、2級は pp.52 を参照。

記の原則を定めたものである。その記述によれば、「常用漢字表」の本表および付表によるものとし、字体については通用字体を用いている。⁸

セル3 日本語の読み表記

日本語における読みの表記は、平仮名表記で提示した。複数の読みがある語に関しては、調査した辞書の表記を参考にした。ただし、「明日」の場合は、音読みと訓読みの両方表記されていたため、そのとおりに表記した。

セル4 辞書情報1—新明解国語辞典

『新明解国語辞典』(第7版)は、日本語の 77,500 語が掲載されている国語辞典である。新しい「常用漢字表」(2010 年 11 月内閣告示)に対応し、最新の国語施策に準拠している。品詞に関する情報、動詞の自他の類別が記されている。さらに、名詞・副詞のうち、サ変動詞または形容動詞としての用法も有するものは明記されている。助詞は格助詞・副助詞・接続助詞・終助詞の4種類に分けて記されている。辞書では、品詞などの表記は、【 】の下に、名詞以外の品詞名を括弧に示されており、名詞は無表記となっている。例えば、<ふつう【普通】>の場合は、以下のように掲載されている。

ふつう【普通】(一)な/に (二)副)

「普通」という見出し語は、「名詞のほかには連体形に「な」、連用形に「に」の用法」および「副詞」という用法があることを示している。

本データベースでは、『新明解国語辞典』の情報を記入する際、品詞が無表記となるところを全て「名詞」として扱う。例えば、<ふつう【普通】>の場合は、表2のように表記する。

⁸ 平成 22 年内閣告示第2号(http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kokujikunrei_h221130.html, 2014.5.23 閲覧)

表2 『新明解』の表記例

No	漢字表記	日本語読み	新明解国語辞典
359	普通	ふつう	名・<な・に>・副

ただし、表3のように、その他の4種類の辞書では、「名詞」として扱われていない語が 10語あった。

表3 『新明解』以外の4種類辞書では名詞として扱われていない 10 語

No	漢字表記	日本語読み	新明解国語辞典	角川新国語辞典	岩波国語辞典	明鏡国語辞典	旺文社詳解国語辞典
47	綺麗	きれい	名・<な・に>	形動	ダナ	形動	形動
102	沢山	たくさん	副・名・<な>	副・形動ダ	副・ダナ	形動・副	副・形動
171	立派	りっぱ	名・<な・に>	形動	ダナ	形動	形動
274	十分	じゅうぶん	名・<な・に>	形動	副・ダナ	形動・副	形動・副
691	奇妙	きみょう	名・<な・に>	形動	ダナ	形動	形動
1278	素敵	すてき	名・<な・に>	形動	ダナ	形動	形動
1279	素直	すなお	名・<な・に>	形動	ダナ	形動	形動
1889	見事	みごと	名・<な・に>	形動	ダナ・副	形動・副	形動
1977	悠々	ゆうゆう	名・<たる・と>	形動	トタル	副・形動	トタル
2008	余計	よけい	名・<な>・副	形動ダ・副	副・ダナ	形動・副	形動・副

セル5 辞書情報2—角川新国語辞典

『角川新国語辞典』は、学校生活から一般社会生活まで必要とする単語・複合語約7万数千語が収められている。動詞・形容詞は終止形が記されており、語幹と語尾が「・」で区別されている。形容動詞は語幹が記されているなど品詞の分類は、だいたい文部省編「中等文法(口語・文語)」の立場に従っている。接尾語のうち、数字の下につくものは助数詞として記

されており、名詞の中でも、代名詞と形式名詞は普通の名詞と区別して掲載されている。動詞は自動詞・他動詞が区分されている。さらに、漢字語の場合はくけっこん【結婚】名・自サ変 > くたいせつ【大切】名・形動ダ > などのように、サ変動詞か形容動詞かという情報が一目で分かるようになっている。本データベースでは、『角川新国語辞典』情報を以下のように表記する。

表 4 『角川』の表記例

No	漢字表記	日本語読み	角川新国語辞典
54	結婚	けっこん	名・自サ変

セル 6 辞書情報 3 - 岩波国語辞典

現代語を中心とし、約6万3千語が収録されている小辞典である。見出し語の品詞や文法上の性質がわかるように記されている。特に、動詞は活用の種類と自動詞・他動詞の区別が明示されている。

形容動詞的に用いられるものは、次のような形で示されている。

- ・りっぱ【立派】《ダナ》
- ・しんこく【深刻】《ダノナ》

漢語名詞で、「する」を付けて動詞として用いるもの、あるいは、形容動詞的にも用いるものは次のような形で示している。

- ・うんどう【運動】《名・ス自》
- ・けんこう【健康】《名・ダナ》
- ・ふまん【不満】《名ナノ》

またその他に、《代名詞的に》は《代》に、《副詞的に》は《副》に表示した。特に、副詞の場合は、〈～に〉〈～と〉を伴う語があり、各々《副(二)》《副(ト)》のような形で表示した。データの表記例は、表5のとおりである。

表5 『岩波』の表記例

No	漢字表記	日本語読み	岩波国語辞典
171	立派	りっぱ	ダナ
192	運動	うんどう	名・ス自
819	健康	けんこう	名・ダナ
1228	深刻	しんこく	ダノナ

セル7 辞書情報4－明鏡国語辞典

『明鏡国語辞典』は第2版を利用した。初版(2002)から第2版(2010)に改訂された際に、約4,000語が増補され、第2版では約7万語が収録されている。改訂の方針によると、「名詞サ変動詞の項目について、近年使われ方の変化が激しく、改めて自動詞・他動詞の認定を行い、標準的な使い方を用例で示す」(『明鏡国語辞典』の「改訂の方針」 p.8)と記述されている。具体的には、全体で動詞として用いられるものは、「名・自サ変」または「名・他サ変」などと示し、〈ライトが点滅する〉〈ライトを点滅する〉のように両方とも用いられるものは、「名・自他サ変」と示されている。

なお、品詞に関して、形容動詞については、原則として語尾に「～な、～に、～だ」がつき、状態的な意味を表すものを形容動詞とする。また、〈健康を損なう〉や〈特別、何も言わない〉のように、語幹に相当する部分が名詞として使われる場面や単独で使われる場合は、「名・形動」のように表記した。以下の表6のとおりである。

表6 『明鏡』の表記例

No	漢字表記	日本語読み	明鏡国語辞典
171	立派	りっぱ	形動
192	運動	うんどう	名・自サ変
819	健康	けんこう	名・形動
1228	特別	とくべつ	名・形動・副

セル8 辞書情報5－旺文社詳解国語辞典

日本語の漢字語における品詞調査では、辞書の違いがみられた。その際には、品詞の情報が記載されているものは、できるだけ多く取り扱うこととした。そこで、最終的に選んだのは、『旺文社詳解国語辞典』(以下、『旺文社』)である。『旺文社』の記述によると、品詞の分類は基本的に現行の学校教科書の一般的なものに従っている。ただし、一部のものについては、さらに詳しい形式によったと記述されている。たとえば、「名詞」のうち、「代名詞」として使われるものは、(代)として区別している。また、普通名詞の中で、サ変動詞および形容動詞の語幹となるものについては、それぞれ品詞名を併記している。

じまん【自慢】(名・他スル) …

おんだん【温暖】(名・形動) …

また、(名・形動)の表記で、「ーな」「ーの」の二つの用法がある場合と、(副)の表記で、「と」あるいは「に」が使われる場合は、次のように表記している。

そうとう【相当】(名・自スル) …

(名・形動・副) …

『旺文社』は、品詞の情報に関して参考としたものの、調査対象とした漢字語のうち見出し

語として記載されていない語が、81 語あった。

表7 『旺文社』の表記例

No	漢字表記	日本語読み	旺文社詳細国語辞典
509	温暖	おんだん	名・形動
1059	自慢	じまん	名・他スル
1378	相当	そうとう	名・自スル・形動・副

セル9 朝日新聞

1985 年から 1998 年までの 14 年分の朝日新聞記事から抽出した約 36 万語の語彙使用頻度データから得た情報である。天野・近藤(2000)『日本語の語彙特性 第2期 CD-ROM 版』で検索した。

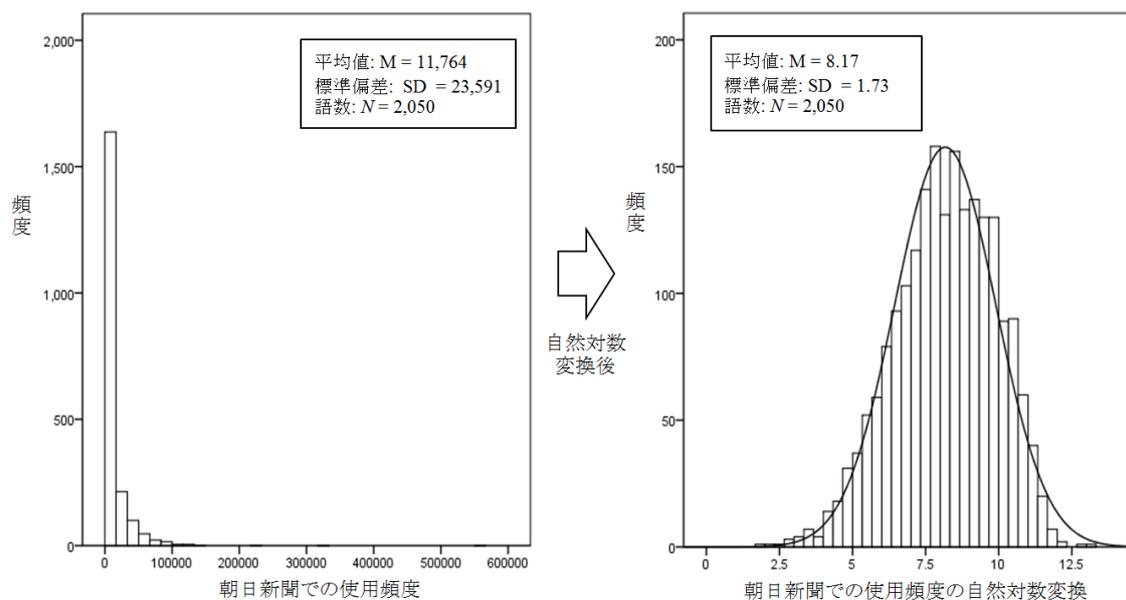


図1 朝日新聞での使用頻度およびその自然対数変換の分布

朝日新聞の14年分で調べた使用頻度は、図1の左側の図のようにベキ分布を描く。ベキ

分布では、極端な値をとるサンプルが多く、図1のように、大きな使用頻度の方向に向かって曲線が長くなだらかに裾野を伸ばしていく分布である。図1の左側のベキ分布グラフを見ても分かるように、平均は意味をもたず、分散に考えようがない。ベキ分布では、正規分布を仮定した統計解析は使えない。そのため、対数変換をして、正規分布を確保してから、統計解析をすることをお勧めする。対数の底としては、2を設定することが多いが、自然対数($e=2.71828$)を使っても良い。図1の右側の分布は、使用頻度を自然対数に変換したものである。ほぼ正規分布を描いている。データベースでは、対数変換の数値は記載していないが、実験で刺激統制をする場合などには、対数変換をしてから分析するとよい。

セル10 毎日新聞

2000年から2010年までの11年分の毎日新聞のコーパスにおける語彙の出現頻度を、形態素解析エンジン Mecab 0.991 を使って独自に検索して、記録した。

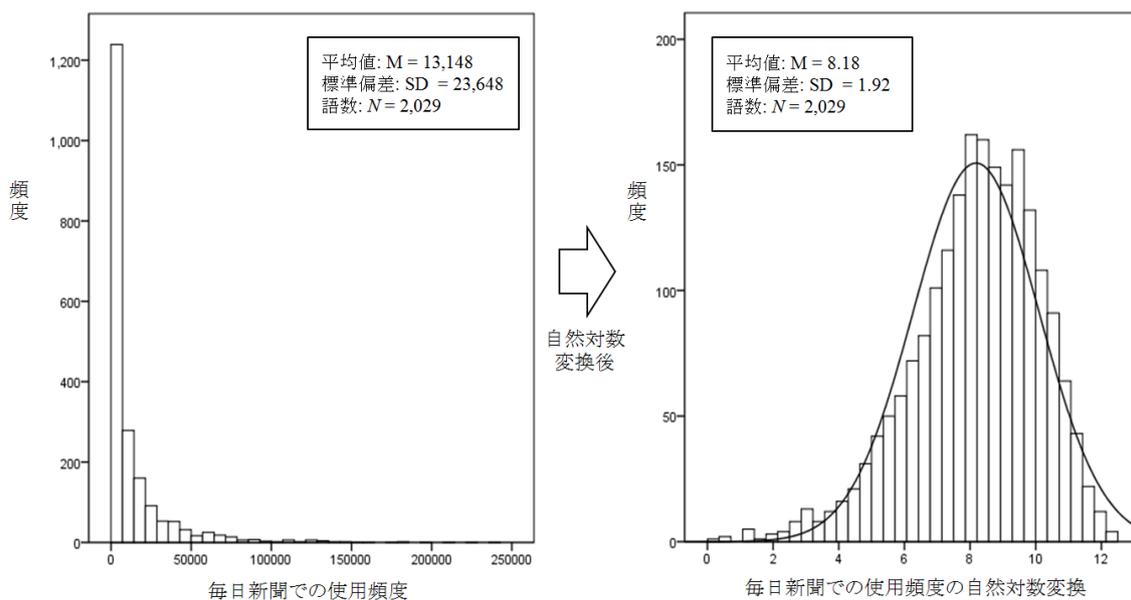


図2 毎日新聞での使用頻度およびその自然対数変換の分布

毎日新聞の11年分で調べた使用頻度についても同じように分布を描いてみた。図2の

左側の図のように、やはりベキ分布を描いている。一方、自然対数変換をした値は、図2の右側の分布のようになり、ほぼ正規分布となった。同様に、本データベースでは、対数変換の数値は記載していないので、刺激統制として使用頻度を使う場合には、対数変換をしてから分析することをお勧めする。なお、朝日および毎日新聞の共通に使用頻度のある2,029語についてのピアソンの相関係数は、 $r=0.871$ ($p<.001$)であり、非常に高い有意な数値であった。

セル11 日本語能力試験の配当級

本データベースに取り入れた日本語能力のレベルは、2010年に新日本語能力試験が実施される以前のものを参照した。従来の『旧試験』のレベルでは、初級は4・3級、中級は2級、上級は1級のように分かれていたが、3級と2級の差が非常に大きいという理由で、現在はN5からN1までのレベルに変更された。⁹つまり、N5とN4は、『旧試験』の4級と3級に相当し、N3は旧試験の3級と2級の間のレベル、またN2は、『旧試験』の2級に相当する。したがって、本データベースで対象とした2級までの語彙は大きくは変わらないと言えよう。

セル12 韓国語の漢字表記

現在韓国の日常では、ハングル使用が原則である。しかし、人名や文書上の誤解を避けるための表記として漢字を使う場合がある。¹⁰一般的な辞書における漢字語の表記も、ハングル表記の見出し語に括弧をつけ、漢字表記が記載されている。韓国内の漢字表記は繁体字が認められているため、日本の簡体字に対応し、同様の字として扱った。例えば、「学」は「學」と同字であると見なし、韓国の漢字表記としては、繁体字で表記した。約100字程度が異なり、その中で2字とも繁体字である語表8に挙げた。

また、両言語で同様の意味として使われる語でも、2字のうち1字を異なる漢字を使う語や、相当する漢字がなく違う漢字を使う語もあった。例えば、「欧米」や「南米」の場合は、

⁹ 「新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版」(http://www.jlpt.jp/reference/pdf/guidebook_s.j.pdf)を参照。

¹⁰ 韓国の漢字使用の事情

「歐美」や「南美」と表記し、「慎重」を韓国語では「鎮重」で表記する。本データベースの見出し語における異表記は、その他には「起床」:「起牀」,「絨毯」:「絨緞」があった(:は、日:韓)。両言語の漢字語の読みを「/ /」に併記した。

表8 日本漢字に対応する韓国漢字の繁体字の例

日本語		韓国語	
写真	/sya-sin/	寫眞	/sa-jin/
経験	/kei-ken/	經驗	/gyeong-heom/
温帯	/on-tai/	溫帶	/on-dae/
継続	/kei-zoku/	繼續	/gye-sog/
欠点	/ket-ten/	缺點	/gyeol-jeom/
湿気	/on-ki/	濕氣	/on-gi/
寝台	/sin-dai/	寢臺	/chim-dae/
担当	/tan-tou/	擔當	/dam-dang/

セル13 韓国語の読み表記

日本語の漢字語に対し、韓国語の読みに変換した場合の音韻表記を『標準国語大辞典』を参照とし調べた。例えば、「学校」は「학교 /hagkyo/」と音韻表記ができ、辞書にも掲載されている。一方、「上着」の場合、「상착 /sangchak/」とハングルの音韻表記は可能であるものの、『標準国語大辞典』には、「上着」という漢字語は掲載されず、「常着(상착 /sangchak/)」が掲載されている。従って、手順としては日本語の漢字語を基準として、韓国語とも漢字語として掲載されている語を韓国語の音韻表記として記載した。また、「一日」から「十日」までのように助数詞を伴う語は、一つの見出し語として表記されている語のみを載せた。

セル14 *-hada* 動詞

「食事 (식사 /*siksa*)」「運動 (운동 /*undong*)」などはそのままでは名詞として使われる。韓国語の*-hada* は、日本語の*-suru* のサ行変格活用の動詞と同じように、単独で動詞として使用される。たとえば、「食事 *suru*」と「運動 *suru*」に対し、「食事 *hada*」と「運動 *hada*」が同様に動詞化という文法的な機能を果たす。しかし、韓国語の*-hada* も日本語の*-suru* も、それ自体では意味を持たないので、軽動詞(light verb)と呼ばれることもある。韓国語では、漢字語に*-hada* を付加することで動詞化し、能動態を表す。

セル15 *-doeda* 動詞

『標準国語大辞典』によれば、韓国語の*-doeda* (-되다)は、さまざまな機能のうち接辞として使われる際、受動の意味を持つ漢字語や固有語に付加され受動態を表す動詞を作る接尾辞であり、わずかな例ではあるが、形容詞として使われることもあるとしている。日本語との対応関係をみると、日本語の能動態の*-suru* に対し、韓国語では*-hada* が対応し、日本語の受動態の*-sareru* に対しては、韓国語では*-doeda* が対応している。しかし、これらは常に対応関係にあるわけではなく、対応しない漢字語もある。例えば、日本語では*-suru* が付加される漢字語に対し、韓国語では*-doeda* を付加するため、態における対応関係は崩れてしまい、学習者によく誤用が見られる。澤邊他(2008)は、韓国人日本語学習者に対する質問紙調査で、「*安定される」などの誤用の例を挙げて、韓国人日本語学習者が最も困難なのは[-하다/*-hada*],[-되다/*-doeda*]の漢語動詞の態系であると報告した。韓国語を母語とする日本語学習者が、このような日韓両言語の対応関係のズレについては、気づくことが重要である。そこで、本データベースでは、2字漢字語における*-doeda* が使用できるかどうかを『標準国語大辞典』を参照して、掲載した。

セル16 *-hada* 形容詞

セル 14 で記述したように、動作性を持つ名詞である2字漢字語に*-hada* が付加すること

で動詞になる。同様に、状態性を持つ2字漢字語名詞に *-hada* を付けると、形容詞になる。たとえば、「曖昧(애매 /ae-mae/) *hada*」「便利(편리 /pyeol-li/) *hada*」などのように、「曖昧」や「便利」に *-hada* が付加され形容詞として使われる。したがって、動詞または形容詞に付加した *-hada* は、書字的には同じであるため、見た目ではすぐには品詞の判別はつかない。そのため、辞書で *-hada* が付加されるかどうかを確認して、動詞か形容詞かを判断し、セル 16 に「形容詞」としての *-hada* の付加であるかどうかを記載した。

セル17 接尾辞「-的(-jeog)」

接尾辞「-的」は、日本の辞書『明鏡国語辞典』では、<‘～に関する’‘～傾向がある’などの意の形容動詞語幹を作る接尾>とし、韓国の辞書『標準国語大辞典』によると、(一部の名詞または名詞句の後に付けられ)‘そのような性格を持っている’‘それに関係ある’‘その状態になっている’という意味を加える接尾辞と記述されている。この接尾辞の「-的」が結合した語の品詞性をみると、日本語では「形容動詞」として扱われ、韓国語においては、名詞または先行する名詞を後ろから修飾する冠形詞として扱われている。

盧(2005)は、接尾辞の「-的」が付加された形は、名詞的特徴を持つさまざまな漢字接尾辞の中でも明確に接尾辞であると述べている。「-的」は生産力が非常に高い接尾辞として、韓国の日常でも頻繁に使われている形式である。『標準国語大辞典』では、2字漢字語において「-的」の使用の有無が見出し語として確認できたので、本データベースにそれを掲載した。

セル18 中国語の漢字表記

中国語の漢字表記はすべて、『簡体字総表』に基づいて、中国の大陸で通用されている簡体字を使用した。1986年10月に発表された『簡体字総表』には、2,274字および「讠(言), 亻(食), 纟(糸), 钅(金)」など14つの簡易化された偏旁が含まれている。

なお、日本語の「製作」と「制作」に対応する中国語は、「制作」としかない。中国語では、現代での簡体字の表記は「制作」になるが、繁体字の表記にすると「製作」になるため、二

つの語は同じ語であると言える。そこで、1,294 番の「制作」と 1,295 番の「製作」と対応する中国語は「制作」とした。

表9 中国語の漢字表記

番号	日本語 漢字表記	中国語 表記1	中国語 表記2
684	記念	记念	纪念
706	給与	给与	给予
1666	熱中	热中	热衷
1760	標識	标识	标志
1894	身分	身分	身份

以上の表9に示した5語に関しては、表記1と表記2は中国語で両方通用されるが、表記1より表記2のほうがよりよく使われている。しかし、＜中国語表記2＞に従うと、日本語との表記が異なるため、＜中国語表記1＞に沿った。

セル19 中国語の読み表記

中国語の読み表記はすべて『汉语拼音方案』（『ピンイン方案』）に従って作成した。この方案は、1957年11月1日国務院全体会議第60回の会議を通して、1958年2月11日第一回全国人民代表大会第五回の会議にて許可された。しかし、本データベースでは、声調が含まれていない。

セル20 辞書情報1—現代汉语词典(現代漢語辞典)

『現代漢語辞典(第5版)』（『漢語辞典』）は2005年6月に、中国社会科学院言語研究所辞典編集室によって編集された辞書である。65,000の項目が収録され、すべての項目に対して、品詞の情報が掲載されている。品詞については、「名詞、動詞、形容詞、数詞、量詞、

代詞, 副詞, 介詞, 連詞, 助詞, 嘆詞, 擬声詞」の 12 種類に分類した。本データベースでは「量詞, 助詞, 嘆詞, 擬声詞」を除き, 8 種類の品詞を扱っている。

セル21 辞書情報2—現代汉语规范词典(現代漢語規範辞典 第1版)

『現代漢語規範辞典(第1版)』は 2004 年1月に外語教学与研究出版社および語文出版社によって発行された。約 13,000 の単字, 68,000 の語項目が収録されている。そのうち, 新しく出てきた約 4,000 の現代の語彙については, 新しい意味も記載されている。基本的には現代の中国語で通用される単語, 比較的によく使用されている新しい単語, 新しい意味を収録するという。2字漢字語には品詞に関する情報が記されている。品詞は前述した『現代漢語辞典』と同じように, 「名詞, 動詞, 形容詞, 数詞, 量詞, 代詞, 副詞, 介詞, 連詞, 助詞, 嘆詞, 擬声詞」の 12 種類に分けて記載されている。なお, 本データベースでは, 「助詞, 嘆詞, 擬声詞」を除き, 9 種類の品詞を扱った。

セル22 中国語辞書間の一致性

前述したように, 中国語の品詞情報について, 『現代漢語辞典』および『現代漢語規範辞典』との2冊の辞書を調べた。なお, 2冊の辞書での記述は異なる場合もある。そこで, この列を設定し, 2冊の辞書での記述が一致するかどうかを明記した。一致する場合は「○」、一致しない場合は「×」で表記した。そして, 「一番」は, 『現代漢語規範辞典』では記述があるが, 『現代漢語辞典』では見つからなかった。このような語の品詞情報を1冊の辞書の情報に準ずる。この場合, 一致する(「○」)とする。具体例は表 10 が示した通りである。

表 10 中国語辞書間の一致性

No	中国語漢字表記	中国語読み	現代漢語辞典	現代漢語規範辞典	辞書の一致性
1	明日	mingri	名	名	○
53	结构	jiegou	名・動	名	×
5	一番	yifan	-	量	○

5. おわりに

韓国語, 中国語, 日本語の同形漢字語を意味的に比較した研究はみられるものの, これらの言語における品詞性の違いを議論した研究は少ない。さらに, 品詞性をデータベースにするのは初めての試みである。そこで, 本データベースでは, 特に, 日本語の2字漢字語の見出し語に対する韓国語および中国語漢字語の品詞情報を掲載した。日本語教育としては, 本データベースを使って, 見出し語の言語間の品詞情報を検索して, 漢字語の文法的な使用を確認していただきたい。また, 言語理解や言語処理のための実験としては, 品詞とともに使用頻度を参照して, 刺激選択に使用していただきたい。さらに, 本データベースは近いうちにウェブ上で, 自動的に検索できるようにしたいと考えている。

[参考文献]

中国語文献関連

- 石堅・王建康 (1983) 「日中同形語における文法的ズレ」『日本語と中国語の対照研究』5, 56-82.
- 三浦昭 (1984) 「日本語から中国に入った漢語の意味と用法」『日本語教育』53, 102-112.
- 荒川清秀 (1988) 「複合漢語の日中比較」『日本語学』5, 56-67.
- 劉月華・潘文娉・故韓(編)片上博美・守屋宏則・平井和之(訳) (1996) 『現代中国語文法総覧』東京: くろしお出版.

韓国語文献関連

- 盧明姫 (2005) 『現代国語漢字의 研究』大學社.
- 李于錫 (2002) 『韓日漢字語の品詞性に対する対照研究-二字漢字語の品詞性-』ソウル: J & S.
- Lee-uyoung (2002) 『『標準国語大辞典』研究分析』国立国語院.

国立国語院 (2002) 『標準国語大辞典』ソウル: 東亜出版.

澤邊裕子・安井朱美 (2008) 「韓国人学習者の日本語漢語動詞の習得に関する一考察—韓国で学ぶ学習者と日本で学ぶ学習者を対象に—」『第二言語としての日本語の習得研究』11:141-159, 第二言語習得研究会.

英文

Yokosawa, K., & Umeda, M. (1988). Processes in human Kanji-word recognition. *Proceedings of the 1988 IEEE international conference on systems, man, and cybernetics* (pp. 377-380). August 8-12, 1988, Beijing and Shenyang, China.

[参照資料]

天野成昭・近藤公久 (2000) 『日本語の語彙特性 第 2 期 CD-ROM 版』東京: 三省堂.

北原保雄(編) (2010) 『明鏡国語辞典』(第2版)東京: 大修館書店.

金田一京助・柴田武・山田明雄・山田忠雄 (2012) 『新明解国語辞典』(1972 年初版, 第7版)東京: 三省堂.

国際交流基金・日本国際教育協会 (2007) 『日本語能力試験出題基準【改訂版】』(第4版)東京: 凡人社.

西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫(編) (2009) 『岩波国語辞典』(1963 年初版, 第7版)東京: 岩波書店.

松浦明(編) (2006) 『大辞林』(1998 年初版, 第3版)東京: 三省堂.

山口明穂・秋本守英(編) (1985) 『旺文社詳解国語辞典』(初版)東京: 旺文社.

山田俊雄・吉川泰雄(編) (1981) 『角川新国語辞典』(初版)東京: 角川書店.

朴善嫻・名古屋大学国際言語文化研究科学術研究員

熊可欣・名古屋大学国際言語文化研究科大学院生

玉岡賀津雄・名古屋大学国際言語文化研究科教授

A description of the database of grammatical categories for
orthographically-similar two-kanji compound words among the
Japanese, Korean and Chinese languages

PARK, Sunju, Ph.D.

Post-doctoral Researcher, Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University, Japan
tenchyoy76@yahoo.co.jp

XIONG, Kexin

Graduate Student, Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University, Japan
xiongekexindawai@yahoo.co.jp

TAMAOKA, Katsuo, Ph.D.

Professor, Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University, Japan
ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp

Abstract: We have established a database of grammatical categories for 2,060 orthographically-similar two-kanji compound words among the Japanese, Korean and Chinese languages. These words are taken from the word lists of the fourth to second levels of the Japanese Language Proficiency Test. The present database includes information such as grammatical categories among the Japanese, Korean, and Chinese languages, and printed frequencies as appearing in the Asahi and Mainichi Japanese newspapers. This paper provides a detailed explanation of 22 cells which contains various information regarding the features of the 2,060 words.

Keywords: two-kanji compound words, grammatical category, printed frequency, database, Japanese language education

